

2026年度 運転・労災事故防止年間重点計画（安全教育年間計画）

実施期間：2026年4月1日～2027年3月31日

信州名鉄運輸株式会社

月	安全指導・研修・行事	事故防止重点施策・安全衛生	国土交通省告示1366号にもとづく教育指導
4月	運輸安全マネジメント委員会 春の全国交通安全運動 安全指導員研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 対面点呼でアルコール検知結果、健康状態及び運転免許証を目視で確認する。 ○ 「安全ハンドブック」等を活用した事故防止を指導する。 ○ 乗車・バック手順に従った各項目の安全確認を指導する。 ○ 荷扱い時における基本ルールと作業開始前の安全確認を実践させる。	○ 事業用自動車を運転する場合の心構え ・トラック輸送の社会的重要性 ・トラック事故の社会的影響
5月	運輸安全マネジメント委員会 フォローアップ研修 クールワークキャンペーン 門前点呼・初任運転者研修	○ 安全な走行速度、車間距離の保持、路肩停車車両に注意するよう指導する。 ○ タイヤの磨耗、ナットの緩み、灯火類等に異常の有無を点検させる。 ○ 作業器具の安全な取扱いをするための個々具体的指導の実施。 ○ 作業現場の整理整頓と安全な作業環境を保持させる。	○ 事業用自動車の安全運行を確保するために遵守すべき基本的事項 ・トラック運行に係る法令 ・義務を果たさない場合の影響の把握
6月	運輸安全マネジメント委員会 安全品質研修・事故惹起者研修 フォローアップ研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 雨天時の安全走行指導。（速度ダウン、車間距離保持、視界・路面状態に応じた運転） ○ トラックの特性（車両の高さ・幅・長さ・死角等）を理解させる。 ○ フォークリフト取扱い責任者及び有資格運転者名の室内表示を確認する。 ○ 構内運転速度及びヘルメットの正しい着用を指導する。	○ 事業用自動車の構造上の特性 ・トラックの特性に合わせた運転 ・貨物の特性を理解した運転
7月	運輸安全マネジメント委員会 夏の交通安全運動・安全週間 安全指導員研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 実車を用いてトラック構造上の特性（オーバーハング・内輪差等）を指導する。 ○ 前方を注視し運転に集中させる。（運転中のスマートフォンの使用禁止） ○ 走行速度に応じた、安全な車間距離を保持するよう指導する。 ○ 急発進、急旋回、急停止は横転、荷物事故の発生要因となることを指導する。	○ 貨物の正しい積載方法 ・編荷重の危険性・積み付け方法・固縛方法 ・荷崩れ防止のための走行中の注意点
8月	運輸安全マネジメント委員会 フォローアップ研修 安全品質研修・事故惹起者研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 対面点呼により健康状態を確実に確認する。 ○ 法令遵守による安全な運行を確保する。 ○ 過積載運行の危険性を熟知させ、運行管理を徹底する。 ○ 作業開始前に現場の安全を確認した後、作業に従事するよう指導する	○ 過積載の危険性 ・過積載による事故要因と社会的影響 ・過積載による罰則・防止
9月	運輸安全マネジメント委員会 秋の全国交通安全運動 安全品質研修・事故惹起者研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 早めの前照灯点灯と安全速度での走行を指導する。 ○ 夕暮れ時の歩行者（高齢者・子供）、自転車に注意することを指導する。 ○ 見通しの悪い、無信号交差点での一時停止、徐行を指導する。 ○ 荷台、又はホームから降りる際の飛び降り禁止を徹底する。	○ 危険物を運搬する場合に留意すべき事項 ・危険物の性状 ・危険物輸送の基本事項
10月	運輸安全マネジメント委員会 運輸安全マネジメント監査 安全品質研修・安全指導員研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 点呼前におけるアルコール検知の確実な実施と仮眠室の点検を徹底する。 ○ 運転免許証の有効期限を確実に確認する。 ○ 「安全ハンドブック」等を活用した事故防止を指導する。 ○ 定期的な構内巡回点検の実施と安全な作業環境を確保する。	○ 適切な運行経路及び当該経路における道路及び交通の状況 ・適切な運行経路の選択と経路情報の把握 ・許可運送における経路選択
11月	運輸安全マネジメント委員会 運輸安全マネジメント監査 フォローアップ研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 指差呼称の徹底と検証の実施。 ○ トラックの特性（車両の高さ・幅・長さ・死角等）を理解させる。 ○ デジタルタコグラフによる連続運転時間、運転離脱時間の確認と指導の徹底。 ○ 荷扱い時における基本ルールと作業開始前の安全確認を実践させる。	○ 危険の予測及び回避並びに緊急時における対処方法 ・危険予測運転の必要性・指差呼称・安全呼称 ・緊急時における適切な対応
12月	運輸安全マネジメント委員会 年末の交通安全運動 輸送等に関する安全総点検 門前点呼・初任運転者研修	○ 乗務前の対面点呼による飲酒・過労の有無を確認する。 ○ 指差呼称の徹底指導と「声掛け」の実施。 ○ 無信号交差点通過手順について指導し実践させる。 ○ 作業現場の整理整頓と安全な作業環境の保持に努める。	○ 運転者の運転適性に応じた安全運転 ・適性診断の必要性 ・適性診断結果の活用方法
1月	運輸安全マネジメント委員会 安全品質研修・事故惹起者研修 安全指導員研修 門前点呼・初任運転者研修	○ タイヤチェーンの携行、冬用タイヤの装着状況を点検する。 ○ 速度、車間距離、制動方法、異常気象時の対処について指導する。 ○ 車間距離保持、安全速度、脇見運転の禁止を指導する。 ○ 不安全な状態で作業を実施させない。	○ 交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法 ・交通事故の生理的・心理的要因 ・過労運転防止のための留意点
2月	運輸安全マネジメント委員会 安全品質研修・事故惹起者研修 フォローアップ研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 急加速、急ハンドル、急ブレーキの危険性を指導する。 ○ タイヤチェーン、冬用タイヤの確実な使用と目的地の事前情報の収集。 ○ 構内運転速度及びヘルメットの正しい着用を指導する。 ○ 急発進、急旋回、急停止は横転、荷物事故の発生要因となることを指導する。	○ 健康管理の重要性 ・健康起因の事故と健康管理の必要性 ・健康管理のポイント
3月	運輸安全マネジメント委員会 安全品質研修・事故惹起者研修 フォローアップ研修 門前点呼・初任運転者研修	○ 運転中に眠気を感じたときの休憩と、体調不良時は必ず報告するよう指導する。 ○ 繁忙期における安全運転と防衛運転について指導する。 ○ 「安全ニュース」「安全ハンドブック」を活用した事故防止を指導する。 ○ フォークリフトは指定された通路を走行し、公道での走行は絶対しないこと。	○ 安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法 ・運転支援装置に係る事故の事例 ・運転支援装置の性能及び留意点